

平成31年度 県学校教育の重点

『夢や希望をもって粘り強く挑戦するひとづくり』

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- いじめをしない、許さない、命を大切にする意識の醸成
- 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援
- ☆地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり



本年度の重点目標

努力事項と具体的な取組（□努力事項 ○取組）

□自分の思いや考えを、しっかり伝える力の育成

- 外国語等の学習を通して、自分の考えをしっかりと伝える授業を展開する。
- 課題を提示し、まとめ・振り返りを重視した授業を工夫する。
（板書やノートの工夫）

□基礎・基本の定着

- 陰山メソッドで集中力と基礎学力を育成する。（まず計算・漢字前倒し学習・音読の反復・集中学習）
☆漢字前倒し学習：1年間で学習する漢字を1学期中にすべて学習します。
- ワークテストによる学力の定着確認と補充学習

□早川に愛着と誇りをもつ子の育成

- 地域の特色と人材を生かした学習を進める。

目標とする成果（評価項目）

- 学習で、「自分の考えを表現したり、友達の話を聴いたりすることができた」とする児童を85%以上。【学期末評価・自己評価】
- 国語・算数のワークテストで、目標値を上回る児童を80%以上【学期末評価】
- 1日「学年×10分以上読書や家庭学習をした」とする児童を80%以上。
【学期末・アンケート】
- 「地域の特色や地域の人とかかわりながら学習できた」とする児童を80%以上。
【学期末・アンケート】

保護者・地域との連携

- ◎懇談会、便りで学習状況を伝え、家庭と連携して学習の習慣化を図る。
- ◎家庭での読書を推奨し、読書に親しむ習慣化を図る。

特色ある教育活動

- 地域伝統のスポーツ クロスカントリースキー学習
- 自然に対する感性や言語感覚を磨く「句会」、豊かな心を育む「読書活動」
- 地域を愛しふるさと意識を育むジオ学習、地産地消給食
- 自然を守り、育てる「つつじが丘緑の少年団」活動、愛鳥活動
- 全校遠足や全校遊び等心をつなぐ縦割り班活動

平成31年度 下早川小学校 グランドデザイン

教育目標 一歩前へ



知：進んで学び 高め合う子

徳：自分をみつめ よりよく生きようとする子

体：体力づくりに 進んで挑戦する子

□自分も友達も大切に、思いやりのある言動ができる豊かな心の育成

- 道徳の授業を中核として、自己をみつめ、生き方についての考えを深めようとする意欲を高める。
- 全教育活動を通して、児童一人一人の自己有用感を育てる。
- 「生活目標」と関連させた思いやりの心育成のための重点指導を各学期に1回以上行う。
- ・全校ソーシャルスキルトレーニングを実施する。

□学校・地域・家庭で、相手に聞こえる声で進んであいさつをする態度と気持ちの育成

- 毎学期はじめに、あいさつ指導を児童の発達段階に合わせて実施する。
- ・児童会組織を活用し工夫しながら「オアシス運動」を展開する。

○「道徳の授業で、話し合いを通して考えを深めることができた」とする児童が80%以上 【学期末・アンケート】

○「友達への言葉遣いに気を付けている」とする児童が90%以上 【学期末・アンケート】

○「困っている人に手助けや声かけをする」とする児童が80%以上 【学期末・アンケート】

○「友人との関係」の肯定的回答が80%以上【Q-Uテスト】

○「進んで相手に聞こえる声であいさつができる」とする児童が90%以上 【学期末・アンケート、実態調査】

○「あいさつがよくできている」の保護者評価が80%以上 【学期末・アンケート】

◎人権学習・同和学習や道徳を積極的に公開し、授業への参加や懇談会を通し、連携して心の教育を推進する。

◎地域ぐるみであいさつ運動を推進する。



こども一貫教育の基本理念

- 健康・心・学力のバランスのとれた子どもを育てる。
- 一人ひとりの個性を生かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てる。
- ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子どもを育てる。
- 家庭・園・学校、地域が力を合わせて糸魚川の子どもを育てる。

941-0014 糸魚川市日光寺322

<http://www.itoigawa.ed.jp/tukimizu/>



□めあてをしっかりとち、体づくりに励む態度の育成

- 体を動かすことが好きになる体育授業や遊びを工夫する。
- ・体力、技能向上のための用具や環境を計画的に整備する。

□早寝・早起き等の望ましい生活習慣の育成

- 年3回の強調週間（6月；歯と口の健康旬間 9、10月；生活リズム改善事業 1月；かせ予防週間）を設け、健康への関心や意欲を高める。

- ・メディアコントロールを含めた生活習慣に関する保健指導の成果と課題を保護者へ発信し、啓発活動を効果的に行う。
（中学校区家庭学習強調週間と連携）

- 日常から良い座姿勢を意識し、それを保つことで、健康な生活への意識を高める。

- ・Gボールを用いて、自分にとって良い感覚の姿勢を形成する活動を継続する。

□自然災害の特徴を知り、自分の身を守るための知識と行動力の育成

- 年間指導計画に基づいた各自然災害の学習を発達段階に応じて確実に行之、訓練等で実践力を高める。

○「体育の授業や休み時間に体を動かすことが好き」とする児童を80%以上【学期末・アンケート】

○「生活習慣をよりよいものにしようと意識している」とする児童を80%以上【学期末・児童アンケート】

○「基本的な生活習慣が身に付いている」とする児童・保護者評価が80%以上【学期末・アンケート】

○「自然災害が発生したときにどう行動するべきか分かる」児童を100%【学習後・ワークシート等】

◎学校保健委員会、中学校区等保護者や家庭・地域、中学校区小中学校などと課題や解決策、成果を共有する。

◎「健康積立カード」「健康生活チェックカード」等を用いて、家庭と学校が連携し、健康づくりとそのための取組を進めていく。